

1 単元名 いきものとなかよし ～むしって、すごいね！！～

2 単元の目標

- 生き物と自然とのつながり（食物連鎖の入門）があることに気づくことができる。
- 生き物が命を持っていることや成長していることに気づくことができる。

（知識及び技能）

- 身近な動物の育つ、場所や成長する様子に関心を持って働きかけができる。
- 自然や生き物に対する思いやりの気持ちを持ち、優しく接することができる。

（思考力・判断力・表現力等）

- 虫を身近に感じ、世話を通して命の大切さを知ることができる。
- うまくいかない経験も含めて、命や自然の現実を受け止めることができる。

（主体的に取り組む態度）

3 単元について

（1）教材観

本単元「いきものとなかよし」では、小学校学習指導要領解説編 生活科の内容「(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。」を受けて、身近な生き物を飼う活動を設定してある。

「いきものとなかよし」は、動植物とのかかわりを通して、子どもが自然への関心や生命尊重の心を育てることを目的とした教材である。この教材は、単に生き物を観察するだけでなく、世話をする・ふれあう・気づきを言葉にするという実践を重視している。子どもは身近な小動物や草花と触れ合う中で、「命あるものは自分と同じように生きている」という実感をもち、その存在を大切にする態度を養わせたい。

また、世話の過程では協力や責任感も育まれると考える。餌やりや水やりを継続的に行うことを通じて、「生き物の立場に立って考える」姿勢を学び、共生への理解を深めさせたい。さらに、記録や発表の活動を通じて、自分の感じたことや発見を友達と共有することができ、自然体験を社会的な学びへと発展することができる。

このように「いきものとなかよし」は、自然とのかかわりを通して情緒面・社会性・観察力をバランスよく育てることをねらいとしており、生活科の基盤を形づくる重要な単元といえる。

(2) 児童観

本学級の半分以上の児童は、幼稚園時代に「SDGs」という言葉や考え方について学んだことがあるため、「SDGs」という言葉を知っている児童がほとんどである。そのため、「SDGs」という言葉について関心は高い。幼稚園時代にも自分たちの住む町をきれいにしようと「ゴミ拾い」をした事もある。また、自分たちでお金を稼ぎ、船に乗り、動物園へ行こうと計画し、船に乗り、鹿児島市内の動物園に行った経験がある。そのためか、何事にも前向きに考え、怖がったり、ためらったりすることも少ない。行動力がある児童が多い。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、6月に「夏がやってきた」の単元の中で、虫取りをたくさんして楽しかった経験をもとに、児童から「教室で虫を飼ってみたい」という声が出てきたことをきっかけに始める。

本単元では、校庭などで生き物を捕まえ、その生き物を観察したり、えさや住む場所を準備したりして、飼う活動を行う。児童には、命の大切さを一番に指導する。飼育する際は、「命を預かっている」という経験を主に指導したい。(生活)

虫や動物の特徴、育つ場所、世話の仕方、変化や成長の様子に気付き、絵に描いたり、文でまとめたりする活動も取り入れる。(国語「知らせたいな、見せたいな」)そして、動物と自分との関わりに気付いたり、自分自身の世話の仕方や世話してきた心持ちの変容などに気付いたりすることも大切にしたい。

すこし難しいかもしれないが、虫や動物の特徴として、虫や動物と自分の関わりに気づくために、まず「虫の役割」を知り、「食物連鎖の入門編」として、身近な虫→屋久鹿→自然のつながりについて専門家にも話をさせていただく。

2学期はじめという時期であり、本校では「いじめ問題を考える週間」も設定されている。道徳の授業で「生命の尊さ」や「友情」に関する授業をすることになっている。本学級も「うちのねこ」と「さるのおかあさん・サヤカ」を使って「(動物との触れ合いを通して、)自分と同じ命があることや似ているところに気づき、親しみをもって、動物を大切にしていこうと学ぶ。」
主：自然愛護、関連：生命の尊さを学習する。

命の尊さを確認し、命を大切に、強く生きていこうと指導する。(道徳)

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

相互性(有限性):命はつながっている。人間も動物も虫も命があり、同じである。だからこそ、自然を大切にしなければならない。

公平性(責任性):今ある豊かな自然を、次世代に未来に引き継いでいくのは、ここに住む自分たちである。

責任性:命ある物を預かるので、しっかり世話をしなければならない。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

・コミュニケーションを行う力

同じ学級の友達と一緒に自分の住む屋久島(安房)の自然を大切にしたいという気持ちと、おうちの人や他の学年、オンラインでつながった友達と協力して自然を守ろうとする態度を育てたい。

・つながりを尊重する態度

自然を守りたいと思い、自然を守る活動に自ら進んで参加する態度を育てたい。

・本学習で変容を促すESDの価値観

・自然環境、生態系の保全を重視する。(生物多様性の重視)

小学1年生なりに自然界の役割を理解し、自分の住む地域の自然を守ろうとする。

・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

恵まれている環境にいるからこそ、しっかりと自然を守ろうとする。

・達成が期待されるSDGs

目標15:陸の豊かさを守ろう (→生態系の一部として虫を見つめ直す)

目標17:パートナーシップ (→周りの人に学んだことを伝える)

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1 生き物と自然とのつながり(食物連鎖の入門)があることに気づいている。	1 身近な動物の育つ、場所や成長する様子に関心を持って働きかけている。	1 虫を身近に感じ、世話を通して命の大切さを知ろうとしている。
2 生き物が命を持っていることや成長していることに気づいている。	2 自然や生き物に対する思いやりの気持ちを持ち、優しく接している。	2 うまくいかない経験も含めて、命や自然の現実を受け止めようとしている。

5 単元の指導計画（生活：10時間 国語：2時間 道徳：2時間） め：めあて

主な学習活動	学習への支援	○ 評価
<p>1 め：むしをさがして、なかよくなるよう。 6月に虫取りをしたときに、たくさんの虫を捕まえることができた。9月の今も捕まえられるか？安房小には、なぜ虫がたくさんいるのだろうと考える。</p>	<p>虫への興味関心を高める ・6月の楽しく捕まえるだけでなく、ペットとして、1～2週間飼うことも伝える。</p>	<p>イー1</p>
<p>2 め：むしのせわのしかたをかんがえよう。 むしのせわのしかたをしる。 ・教科書や本から、どのようにして虫の世話をすると良いかを調べる。</p>	<p>命を預かる心構え ・本を探しておいて、児童が探しやすいようにしておく。 ・分かりやすい動画も見せる。</p>	<p>アー2</p>
(道徳①)「うちのねこ」 言葉がなくても気持ちが伝わることに触れる。		<p>アー2</p>
<p>3 め：むしをつかまえてなまえをつけよう。 ・飼育を開始する。 ・名前をつけて、虫を住まわせる場所を整える。</p>	<p>仲間意識・愛着 ・名前をつけることで、自分のペットであることを理解させ、大切に育てさせる。</p>	<p>ウー1 イー2</p>
(道徳②)「さるのおかあさん・サヤカ」 片腕のない母猿の心情を通して、家族の絆やペットをどのように育てるべきなのか、命の大切さと生きる喜びに触れる。		<p>イー1</p>
<p>4 め：むしのすごいところをしよう。 ○専門家の話①虫のすごさに気づく。自然の中のむしの役割を知る。</p>	<p>生き物の役割の理解① ・専門家の力を借りて、自分のペットにも役割があることを理解させる。</p>	<p>アー1</p>
<p>5 め：むしのうごきやたべかたをかんさつしよう。 ・よく観察する。虫の動き・食べ方についてワークシートにまとめる。</p>	<p>観察力・気付き ・ぴよんぴよん飛ぶ。ビューンと空をとぶ。などの表現ができるように支援する。</p>	<p>アー2 イー2</p>
(国語①・②)「知りたいな、知らせたいな」 ペットの観察をまとめる。(絵と文)		<p>イー1</p>
<p>6 め：むしとのせいかつをふりかえろう。 ・いっしょに過ごした日のことを振り返り、これから、どうしていきたいかを考える。</p>	<p>・これからも優しく接したいと思えるように、これまでの写真などで振り返りやすくなるように支援する。</p>	<p>ウー2</p>
<p>7 め：むしのやくわりをさらにしよう。 ・○専門家の話①自然の中の虫の役割を知る。 8 ・どこにいる、どんな虫がどのような役割をもっているかを、かくにんする。</p>	<p>生き物の役割の理解① ・専門家の力を借りて、虫も動物にも役割があることを理解させる。</p>	<p>アー1</p>
<p>9 め：むしといっしょにくらしでおしえてもらった ・ことをみんなにつたえよう。 10 ・学んだことを遠くにいる友達へ伝える。</p>	<p>外部へ伝える準備 ・小宝島の小学校とつながり、学習したことを伝える準備をする。</p>	<p>アー1 アー2</p>



なんと、ゲンゴロウを発見し、ペットにしたグループもありました。



わたしたちのグループは、いなちゃんをペットにしました。

むしとなかよし

むしとりをしているときのきもち

- やさしいきもち
- いいきもち たのしいきもち
- うれしい
- むしかわいいな 小さいむし 大きいむし
- うきうき
- たくさんむしをつかまえた

いのち

やくわり

おせわがたい人

これから

いものとなかよし
なまえ ()

あて：むしをさがして、なかよくなろう！

ここには、むしがましかけたけいいる

つけたむしは、つちいなぎ

きたところは、たみいんじい

ごき・ようす むし

むしのしるい つちいなぎ

たべものは すんどういんじい

いものとなかよし
なまえ ()

むしのなまえは、いなちゃん

えらんだりゆうは、いなごバツタににてるから

ようすは、げんきいはい
びんびんせけんする

いものとなかよし
なまえ ()

むしのなまえは、ケソゴロ

えらんだりゆうは、かこいい

ようすは、あまぎらひうす

むし、てずいの？ → たくさんいると
むしがいっぱいあるの？ → どれか1つでも
いなくなると、
たくさんのいきもの
がしんでしまう

みずのなか
じのんのなか
じめんのうえ
そらにいける。
むしは、^{ちい}小さいけど
たぐさんいる。

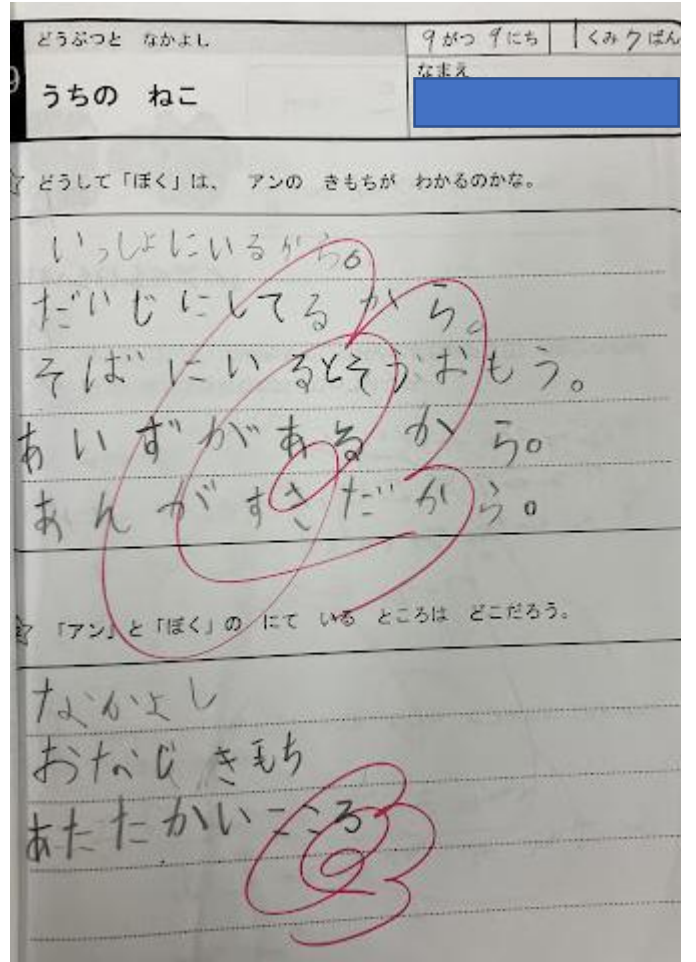
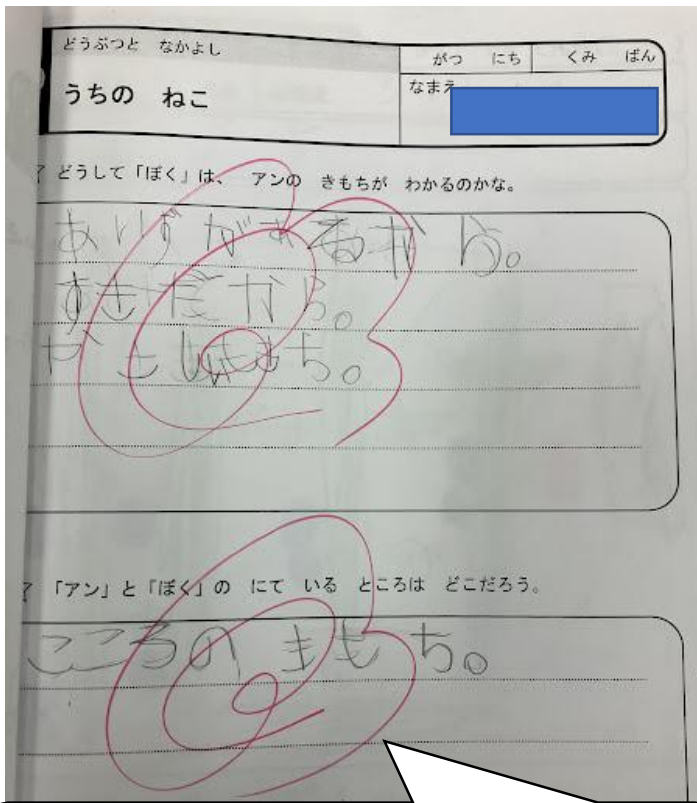
むしにも、
やくめがある!!



いきものとながよし

むしかごで、むしをかってみてどうでしたか？
どんなことをべんきょうできましたか？

げんごろうは、バンタをたべないことがわかった。 かってうれしかった。
むしのせいからもたいへん!! おへやのうじはたいへんだ。 かわのは、たいへんだ。 わかた
むしをたいせつにしたい。 むしをつかまえても、にがしてあげようとおもた
むしをあんまりつかまえないようにしたい。 むしにもかぎくがいることがわかった

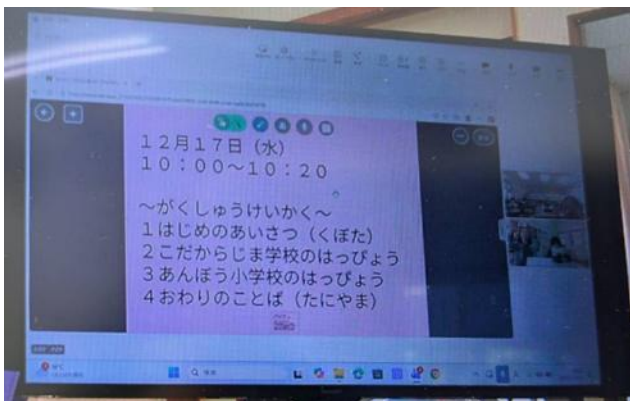


道徳の授業でも「命」について学習しました。生き物は、仲良くしなくちゃいけないし、同じ気持ちだし、あたたかい心をもっているんだよね！



なんと、ゴキブリを見せてもらいました。いつもだったら「キャーッ」って叫んじゃうところだけど、今日は、触りたい気持ちになりました。羽あり（8時虫）も今日は、木を分解してるすごいヒーローでした。本物をよく見たり、さわったりすることができました。（環境省の加藤先生）





小宝島の友達(1年生1人)に生活科で学習した「虫・動物に役割があること」を伝えることができました。小宝島のお友達も「私も虫を捕まえて、観察が済んだら、お外に逃したい」と言ってくれました。

安房小の児童は、1年生が20人です。モニターに映るお友達と一緒に学習したことが嬉しくて、最後は、時間いっぱい自己紹介していました。小宝島の友達は、小宝島の季節・自然について教えてくれました。次回は、安房小の冬についてお知らせしようと思います。

(成果と課題)

本学習を通して、児童は実際にやぎに会ったり、虫を飼育したりする体験を重ねることで、人間だけでなく、動物や虫にも命があり、すべての命がつながって生きていることを実感し、理解するようになってきた。特に、命あるものを「預かる」という意識が芽生え、世話をする際には「えさをあげないとかわいそう」「生きているから大切にしよう」といった発言が多く聞かれるようになった。また、道徳科の学習と関連させることで、命を大切にすることは、生き物だけでなく、自分自身や友達、家族を大切にすることにもつながるという考え方が少しずつ育ってきた。さらに、日常生活の中にもその変化が表れ、児童の落とし物の中で最も多かった消しゴムの落とし物が、学習後ほとんど見られなくなった。これは、物にも役割があり、大切に扱うべき存在であるという意識が高まった結果であり、「命」や「つながり」を大切にすることが、生活態度の改善として具体的に表れた成果であると考えられる。

一方で、本学習を進める中で、屋久島という自然に恵まれた環境が児童にとってあまりにも身近であるがゆえの課題も明らかになったように感じた。自然が常に身の回りにあり、当たり前存在として感じられているため、「自然はいつもそこにあるもの」「多少大切にしなくてもなくなるもの」と無意識のうちに捉えている児童も見られた。そのため、自然を守る行動が自分たちの責任であるという意識や、今ある自然を未来へ引き継いでいく必要性については、十分に実感できていない面があるのだと感じた。また、生き物の世話についても、教師や周囲の大人が支えてくれることを前提に考え、自分自身が責任をもって関わり続けるという意識が弱くなる場面も見られた。今後は、自然や命は「あるのが当たり前」ではなく、「守らなければ失われてしまう可能性がある」ことに気付かせられるように、改善したい。



現在の学年終了時に目指す姿

自分たちの住む地域に誇りと愛着をもち、一人一人が町づくりの主体であることに気付くとともに、多様な人たちと協働してよりよい社会のための行動を自ら起こすことができる。

こんなに自然あふれるところで生きているなんて幸せなことなんだなあ。

虫のことをもっと知ってみたいな。虫は、何を食べているんだろう？

虫も動物も人間もみんなにやさしくできる人になろうね。みんなで協力して自然を守ろう！私たちの遊び場、安房を守ろう！！

生活科「いきものとなかよし」

実際に身近な虫を触ったり、見たりすることで、虫への興味関心を高め、さらに、専門家(環境省の方)の話を本物の虫を使って説明してもらうことで、虫の役割や自然の循環に気づき、「虫も自然の大切な一部である」と実感させ、自然や命を大切にすることを育てる。

生活科「いきものとなかよし

～おしって、すごいね！！～

○主に養いたい ESD の資質・能力
コミュニケーションを行う力

同じ学級の友達と一緒に自分の住む屋久島(安房)の自然を大切にしたいという気持ちと、おうちの人や他の学年、オンラインでつながった友達と協力して自然を守ろうとする態度を育てたい。

つながりを尊重する態度

自然を守りたいと思い、自然を守る活動に自ら進んで参加する態度を育てたい。

道徳「さるのおかあさん・サヤカ」(公文書院)

母さるサヤカが子どもを思って行動する姿を通して、家族を思いやる心情を育てたい。サヤカが危険を察して子さるを守ろうとしたり、寄り添ったりする行動から、親が子を大切にする気持ちを感じ取る。子ども自身も、自分が家族にどのように支えられているかを振り返り、感謝の気持ちや相手を思いやる心を深めることをねらいとする。虫も同じ生き物であることも理解させる。

道徳「うちのねこ」(公文書院)

教材「うちのねこ」では、命ある存在への思いやりを考えるとともに、ねこのしぐさから気持ちを読み取る大切さに気付かせる。ねこがドアの前で立ち止まる姿から「通りたいのかな」と気持ちを想像し、ドアを開けてあげるなど、相手の立場に立った行動につなげる。身近な存在との関わりを通して、自分の言動を振り返り、やさしさや思いやりの心を育てることをねらいとする。

国語「知らせたいな、見せたいな」

虫の役割や自然とのつながりを学びながら、国語科「見せたいな、知らせたいな」で育てる“詳しく説明する力”を合わせて伸ばしたい。子どもたちは、見つけた虫の特徴や働きを、順序よく、比べたり例を挙げたりして伝える表現方法を学ぶことになっている。生活科での気付きと国語の学習を関連付けることで、調べたことを分かりやすく説明する力を育て、学びをより深めていくことをねらいとする。

やぎについて体の大きさから説明して、次は、毛の色について説明したらどうかな？

言葉にならなくても、気持ちがわかることがあるんだね。